

組織

会長	大野 一紀	(戸島小学校)		
副会長	三浦 直樹	(下浜中学校)	築地 洋	(中通小学校)
事務局	渡部 英明	(勝平小学校)	菊地 有希子	(日新小学校)
	中尾 裕子	(御所野学院中学校)		
幹事	小林 さおり	(将軍野中学校)	佐藤 水季	(雄和中学校)
会計	佐藤 廣子	(勝平中中学校)		

主な事業

大森山動物園
第44回親と子のふれあい写生大会
(大森山動物園と共催：審査日8月21日)

クロッキー展：市内各小学校
(審査・展示：各小学校で)

秋田県児童生徒美術展
秋田市作品募集・審査・展示
(審査12月6日～12月10日)
(展示2月下旬を予定)

研究会の記録

親と子のふれあい写生大会

今年も昨年度と同様に、新型コロナウイルスの感染拡大により、開催が危ぶまれた。5月に行われた実行委員会で検討した結果、毎年楽しみにしている子どもたちのためにも昨年度と同じような方法で実施することとなった。立体の部は中止し、原則園内での制作をせず、自宅での制作とした。園内での簡単なスケッチや写真・動画撮影は可とし、それらや園の公式 SNS などをもとに制作してもらうことにした。作品の募集期間を8月2日～8日までの7日間と幅をもたせ、集中しないように配慮した。集まった作品は8月21日(土)に秋田市造形教育研究会会員の担当が審査した。昨年よりは少なくなったが約340点の応募があった。家でじっくりと時間をかけて制作した作品も多くみられ、テーマ表現のため、考え抜き工夫された構図や色使いに、作者の作品にかける思いを感じ取ることができた。審査前日にワクチン接種による体調不良で審査に不参加の会員もあり、当初の予定よりも少ない人数での審査となった。各学団ごとに担当を決め、話し合いながら賞を決めていった。動物園の園長にも参加していただき、「子どもの絵には動物に対する気持ちや感性がよく表れる。風景画などと違い動物園での動物写生は、いのちと向き合いながらの作品づくりになる。生き物、動物の内面と向き合って描く作業ともいえる。絵を描く技術もさることながら、生命を感じ、生きている動物を見つめ、自然への想いも膨らませながら描いてほしいという思いがある」というお話をうかがった。今年度も、作品を見る目を養う有意義な研修の場となった。来年度は、動物たちと対話しながらの写生会が行われることを願っている。



審査の様子

秋田県児童生徒美術展(秋田市審査)

今年度も昨年に引き続き、画像による審査(パワーポイントのデータを使って出品データを作成し、その画像をもとに審査する)という形で行うことになった。昨年度と同じ手順ということで、大きな混乱もなくスムーズに審査することができた。今年度も通常の展覧会に代えて、2月下旬に入賞作品の画像をイオンモール秋田ショッピングセンターセントラルコートの大規模ビジョンに繰り返し映し出す予定である。